

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.3(2023年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)

え?「本の虫」って
いう意味ですけど。



今年も、生徒（図書委員）による本の選定が始まりました！！

本校では、生徒選定委員や先生方にもそれぞれの立場から図書館に置く本を選んでもらっており、言わば学校全体で図書館を作り上げていっています。

今年も少しずつ選ばれ始めていますが、まずは気になる漫画の情報から。

①にいさとるの『WIND BREAKER』は、TVアニメ化も決定した、新しいタイプのヤンキー漫画。主人公の桜遥（さくら はるか）は「偏差値は最底辺、喧嘩は最強の風鈴高校で、頂点に立つ」という野心にあふれてその高校に転校してきました。ところが、彼が移住してきたこの町で見たものは、そんなイメージをくつがえすものでした・・・

②龍幸伸『ダンダダン』は、幽霊や宇宙人といった異世界の怪物たちとの戦いを描いた、怪奇バトル漫画。霊媒師を祖母に持つ女子高生・綾瀬桃とオカルトマニアの男子高校生・高倉健の二人が主人公ですが、この二人のラブコメという側面もある作品です。また、あの藤本タツキのアシスタントも務めていた作者の迫真の画力も見もの。

③藤本タツキの『ファイアパンチ』は、『少年ジャンプの』のウェブ版の『少年ジャンプ+』の転換点となった記念碑的な作品です。「週刊少年ジャンプ」ではできないような挑戦的な内容にしたい、という意気込みで作られた漫画で、「ストーリーの展開が全く読めない」ということで人気を呼び、それまで『ジャンプ』の電子版でしかなかったこの雑誌が、この作品以降、『SPY×FAMILY』などのオリジナルのヒット作品を生みだしていくようになりました。

④鴨志田一の『青春ブタ野郎はおでかけシスターの夢を見ない』は、今月末からアニメ映画が全国で封切られる予定の、原作本です。題名の通り、シリーズ第8巻にあたるこの作品のヒロインは、主人公の妹の花楓（かえで）。彼女は中学校でひどいイジメを受け、引きこもり生活を送っていました。そんな彼女は不登校から立ち直ろうと努力し、兄の通う高校に進学したい、と気持ちを表明するのですが・・・シリーズ既刊12巻をそろえていますので、映画を観る前にぜひ図書館へ！

『怪物』 坂元 裕二ほか

第76回カンヌ国際映画祭で、是枝監督の『怪物』が「脚本賞」とLGBTやクィアをテーマにした映画に与えられる「クィア・パルム賞」の2部門で受賞したのが、映画ファンの中では話題ですね。この本は、その映画の脚本を小説に書き直したものだ。

シングルマザーの早織は、小学5年の息子の最近の様子に変なことに気付いていた。「息子は担任から暴力を受けている」と判断した彼女は、学校に乗り込む。しかし、真相はもっとずっと複雑で・・・

『自宅で湿地帯ビオトープ！～生物多様性を守る水辺づくり』 中島 淳

「ビオトープ」って元はドイツ語で「生き物の生息する場所」って意味らしいです。要するに生き物がいればどこでもビオトープなわけですが、人口の池や水たまりを自宅で作れば、お手軽に生き物の豊かな「湿地帯ビオトープ」を楽しめます。庭がなくとも、ベランダに鉢やコンテナを置くだけでもOK。さあ、この本を読んで、わが家にもちよとした生態系を創り出してみませんか？



図書委員による東高校図書館の本の人気投票の集計結果です！

総合優勝は漫画の『SPY×FAMILY』。仮初め家族の絆に感動させられた人が多かったようですね。小説部門は新海誠の『小説 言の葉の庭』、絵本部門は『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』、その他部門はFの『20代で得た知見』でした。多数の投票、ありがとうございました！

『大学ランキング 2024』

朝日新聞出版（編集）

みなさんが大学に何を求めるのか、によってその大学のランキングは変わってきます。「有名な企業に就職するために大学に行く」のなら、「人気企業就職率ランキング」、「勉強しやすい設備が欲しい」のなら「教育環境ランキング」、「すぐれた研究をしている先生に学びたい」のなら「研究業績ランキング」などなど・・・大学を「最終学歴」として履歴書に書く人も多いでしょうから、大学選びは情報収集をしっかりと。

『真夏の甲子園はいらない：問題だらけの高校野球』 玉木 正之、小林 信也

温暖化が進み、猛暑がひどくなっている日本。熱中症等のため、環境省は「気温31℃以上は激しい運動は中止」すべき、としています。夏の甲子園の野球全国大会は今も変わらず行われています。それどころか、「甲子園を考え直そう」という意見すらマスコミに封印される現実。元球児らが、この現実に向かいます。

今号のひとこと

自分に回ってきた役ってというのは、誰かが断った役だ、っていつも思っている。
役所広司 (1956-)

1997年に主演した映画『うなぎ』（今村昌平監督）がカンヌ映画祭の最高賞パルム・ドールを受けた役所広司。今度は、同じカンヌ映画祭の主演男優賞を受けました。日本人としては史上二人目の快挙で、映画はドイツの名匠ヴィム・ヴェンダース監督の『PERFECT DAYS』です。でも、彼が渋谷の公共トイレの清掃員という主人公を演じたこの作品、まだ日本では公開は決まっていなんです。ぜひ、日本でも公開に期待したいですね。

「福山雅治と荘口彰久の『地底人ラジオ』（2022年9月3日放送）からの引用でした。